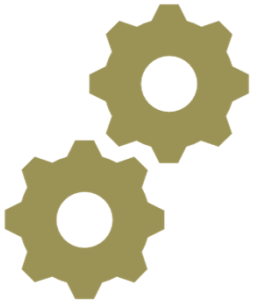
UNIDOS簡易測定手順書

対象：UNIDOS T10001、T10002、T10005をお使いのユーザー様

放射線治療関連機器 輸入販売・サポート
Euro Medi Tech
TEL：03-5449-7585（東京本社）
Mail：dosimetry-support@euro-meditec.co.jp

コンテンツ

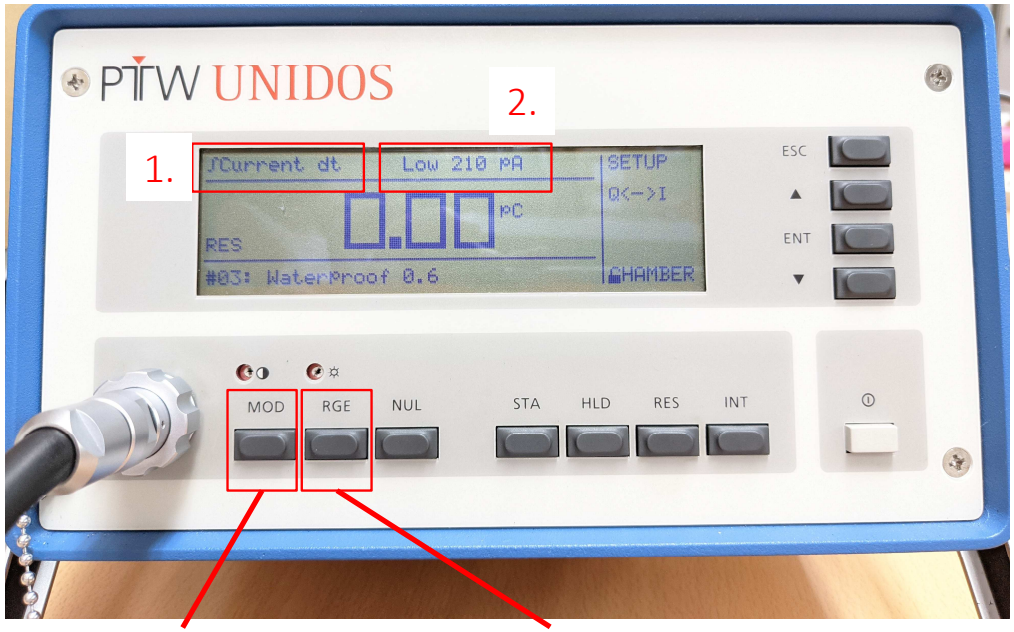
測定の流れ



設定等確認、実測手順

測定の流れ

- □コンセントを接続
  ※必ず純正の電源ケーブルを使用
  ※必ずアースを接続（3本足のプラグ）
- □電源投入
- □ウォームアップ（10-15分）
- □セットアップ、各種設定を確認
  ※詳細は別頁に記載
- □印可電圧設定、検出器接続
- □必要に応じてプレ照射実施
- □ゼロ調実施（NULボタン）
- □実測（STAボタン）、リセット（RESボタン）



MOD
（測定モード変更）

RGE
（測定レンジ変更）

設定確認

1. 測定モード

校正時のモードと同一であるか、ご確認ください。

通常、”∫Current dt”（電流積算）です。

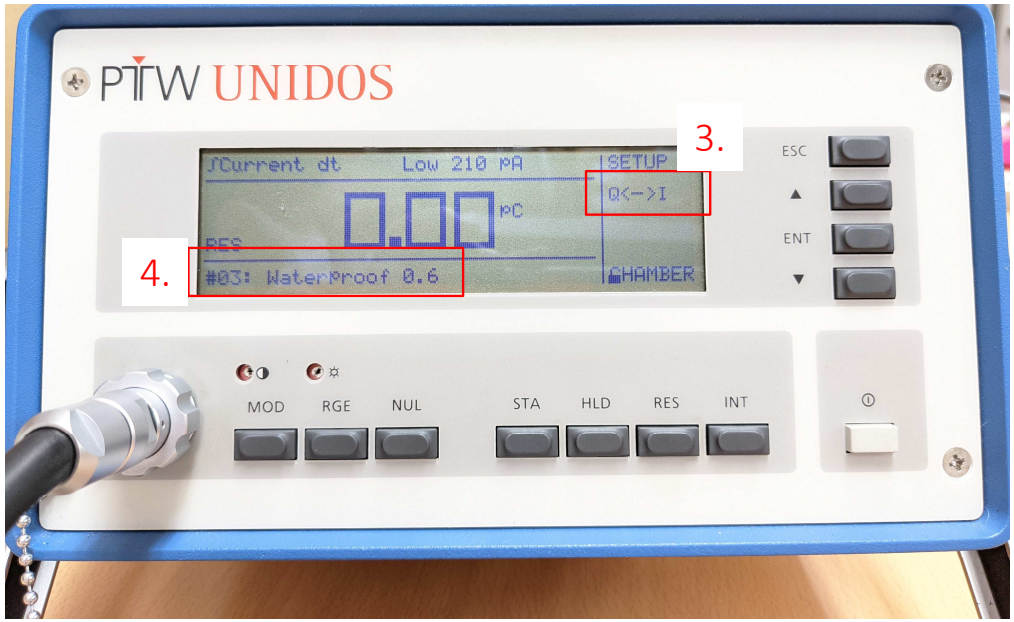
“CHARGE”（コンデンサモード）になっている場合はMODボタンを押して変更してください（通常は使わないモードです）。

2. 測定レンジ

校正時のモードと同一であるか、ご確認ください。

レンジが違う場合は、RGEボタンを押して変更してください。

目安としては、Farmer型、Roos型はMedレンジ、PinPoint型、Advanced Markus型はLowレンジとなります。0.125ccのSemiflex型は通常Medレンジとなりますが、校正センターの線源減弱のため、Medレンジでの校正が出来ないケースもあります。



設定確認

3. 表示モード

Qは電流積算値、Iは現在の電流値を示します。

通常はQの電流積算値を用います。

I表示では、非照射時に電位計が安定しているか、照射時にD/Rが安定しているかを確認することができます。

4. 電離箱

正しい電離箱が選択されているか、確認してください。

また、カーソルをCHAMBERに合わせてENTボタンを押すと、設定値の詳細が確認できます。

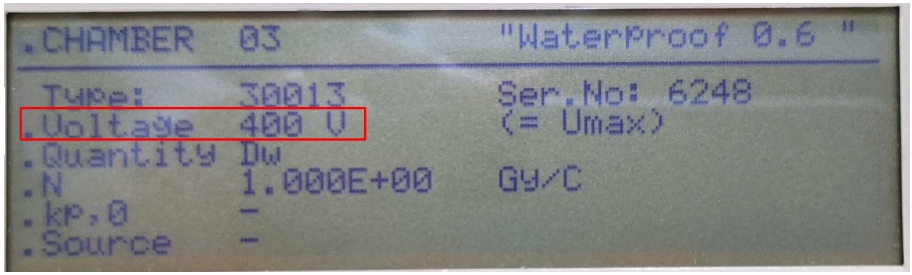
印可電圧が正しいかどうか、確認してください。

設定が正しい事が確認できましたら、検出器を接続してください。

その際、一度印可電圧を0Vにするか、そのまま検出器を接続するかは電位計のタイプやご施設の運用方法によって異なります。

ご不明な点はユーロメディテックまでご連絡ください。

設定確認



印可電圧→

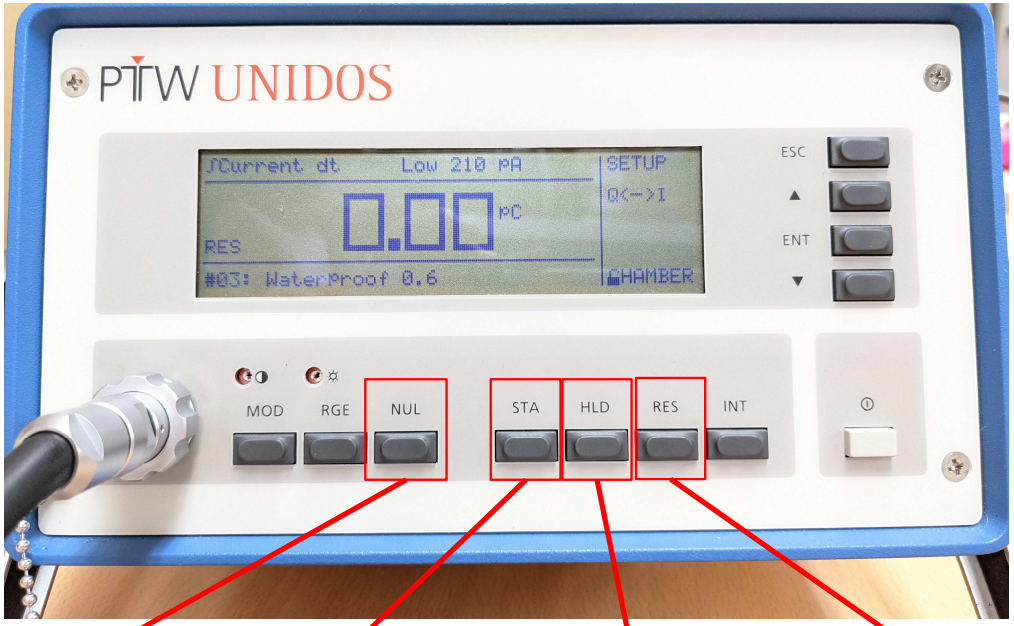
←極性変更スイッチ

5. 電離箱設定の確認

上下キーでVoltageにカーソルを合わせてENTボタンを押すと、印加電圧が変更できます。

極性は本体背面にあるスイッチで変更可能です。

極性の変更時は、念のため線量計のケーブルを抜いて行うことをおすすめします（検出器の故障予防のため）。

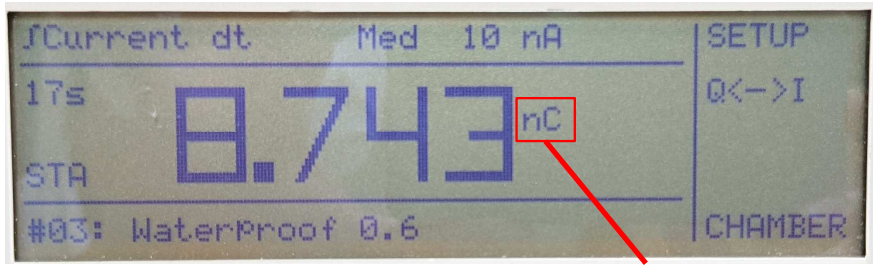


NUL
（ゼロ調）

STA
（測定開始）

HLD
（表示値固定）

RES
（指示値消去）



必ず単位を確認してください

実測

準備が整いましたら、必要に応じてプレ照射を行い、NULボタンを押してゼロ調してください。

ゼロ調には通常70秒ほどかかります。

ゼロ調後、表示モードをIにして、値が0で安定していることを確認してください。

表示モードをQに戻し、STAを押すと測定を開始します。ビームを照射し、照射が終わったらHLDボタンで表示を止めてください。（ほとんどの場合、HLDを押さなくても表示は安定しています）

必ず単位が電離量（pC、nC）となっている事を確認し、計算用のExcelシート等に数値を記入してください。

計算シートの数式も確認し、どの単位で計算されるかを必ずご確認ください。

計算シートに記入後、RESボタンを押して測定値を消去してください。

UNIDATAについて

01法の時代に販売していた線量計算・管理ソフトウェア「UNIDATA」はWindows XPまでの対応となり、既に弊社でのサポートも終了しております。

また、12法にも対応しておりませんので、Excelシート等での線量計算をお願いいたします。